

【グループC】

参加者：11 大学 11 名（敬称略）

南谷 晴美（愛知学院大学）
東槇 典子（名古屋外国語大学・名古屋学芸大学）
加藤 千咲子（名城大学）
高見 理恵（愛知淑徳大学）
黒柳 好子（愛知東邦大学）
吉岡 亜佳音（金城学院大学）
粟生 純代（人間環境大学）
渡邊 英二（中京大学）
保富 洋子（豊田工業大学）
尾崎 友子（名古屋女子大学）
濱口 庸介（愛知大学）

司会進行：尾崎友子（名古屋女子大学）

全大会報告：粟生純代（人間環境大学）

記録：濱口庸介（愛知大学）

1. はじめに

まず、司会進行の尾崎委員からグループCの担当者の紹介、討議の進め方について説明がされ、説明された内容に沿って討議が進められた。

尚、グループCでは、自己紹介と共に各図書館で実施されている図書館活性の為の取組（特に利用者増加の為の工夫）について事例を報告してもらい（30分）その中で出された意見で共通の意見についてグループ討議し（30分）、最後総括をまとめる（15分）という形で進められた。

2. 事例報告

参加者の図書館で実施されている取り組みとしては下記の事例が報告された。

1) オリエンテーション・講習会関連

- ・新入生を対象にした図書館館内ツアー、図書館利用のオリエンテーション
- ・学科単位のオリエンテーション
- ・論文の書き方をテーマにした講習会
- ・卒論をテーマにした文献探索講習会

- ・3人1組による本探しゲーム
 - ・白地図のような館内案内図の作成（書架にどのような本があるか書き込ませる）
- #### 2) 展示関連
- ・おすすめ本コーナー（「学生を応援するというテーマ」）の展示
Ex. 4月では“1人暮らしの学生を応援する”という趣旨で料理本を展示。またそれに連動し宮沢賢治の「注文の多い料理店」（初版本・復刻版）を展示する等
 - ・映画の原作本の展示
 - ・返却図書コーナーの設置（貸し出された図書がすぐ書架にもどるのではなく、利用者の目に止まるようにする為）

3) 広報関連

- ・中日新聞への図書館活動の情報提供

4) イベント関連

- ・読書感想文コンクールの実施
- ・携帯写真を公募し、写真にコメントを付け館内展示する。

5) 図書館と他との連携関連

5.1) 講義との連携

- ・資格試験にあわせた関連図書リストの掲示
Ex. 資格試験の願書配布時期に合わせ関連資料を館内掲示したり、関連講義の中で教員から配布してもらう。

- ・就活の為に役立つDB講習会の実地

Ex. 日経テレコン女子大版を使い、女性雑誌情報、会社四季報、地元の有力企業情報、ビジネスマナーなどを課題形式に講習。

5.2) 学生との連携

- ・学生図書委員・ライブラリーサポーターズの活用

Ex. 選書ツアーの実施。オリエンテーションで使用するパワーポイントには学生の声を反映させる。

5.3) 閲覧（委託）と図書館との連携

- ・閲覧で起こった学生からの要望事項を図書館で

共有する為、サーバでの情報共有を図っている。

5.4)外部講師・講演者との連携

・外部講師の資料の提示・落語家の講演を企画した。

3. グループ討議

・グループCでは、まだライブラリーサポーターズ(以下:サポーターズ)といった学生の活用を検討している大学が多いため、既に実施している金城学院大学へ質問させていただいた。質問・その回答としては下記の通り。

1) 勤務管理・担当内容は?

・学生に1週間の空き時間を教えてもらい、スケジュール管理している。ボランティアなので休む時に連絡等については指導している。

担当内容は、図書館便りの作成、展示、配架を担当してもらっている。

2) トラブルはあるのか?

・トラブルはない。

3) アルバイト料といった報酬は?

・報酬の代わりに年2回の選書ツアーに参加できる権利を与えている。1人1回2万円迄本が購入できる。尚、選書に関しては、予め選書基準(購入できない本を明記)リストを渡す等指導している。

4) 無償なのに人が集まるのは、どうしてか?

・サポーターズには、"選書ツアーに参加できる"という権利を与えているが、それだけではなくサポーターズに対して図書館員は常に感謝の言葉をかけるようにしている。そのような事も一因となっていると思う。

5) 募集方法は?

・サポーターズが作成したポスターを2ヶ月間掲示し、レファレンスカウンターに申し込んでもらっている。その際、申込用紙には、学生の得意な事(絵を書くのが好き等)に丸を付けさせ、その学生の特技等を見て採用をしている。募集人数は20人迄だが、結構応募がある。

6) サポーターズを導入して良かった点は?

・学生の本当の生の声(学生の希望している事)が聞けるようになった。

(導入前はレファレンスでもなかなか学生の生の声を聞くことは難しかった。)

・学生との信頼関係が築けた。

(サポーターズにオリエンテーション用パワーポイントに意見を求めたが貴重な意見が寄せられた。)

4. まとめ

最後に、以下の項目をグループCの討議のまとめとした。

・オリエンテーションは、説明者側の一方方向よりも学生参加型の方が有効、ガイダンスの説明では冒頭の掴みが重要である。

・文献検索講習会等の講習会では、あらかじめテーマを設定する、課題等を与える方が有効である。また、学生への質問に対してもトラップをしかけることも効果的である。

・展示については、学生のニーズを考慮し、また時事ネタを取り入れる、定期的に企画することが重要である。

・図書館の雰囲気作りでは、ぬいぐるみ等のディスプレイを活用する等学生が入りやすい雰囲気を作る、また年間を通じ季節感を取り入れることも重要である。

・ライブラリーサポーターズ等の学生を活用する場合、事前に休む時などの連絡・選書等の心構えを指導することが重要である。また、ライブラリーサポーターズに対しては常に感謝の言葉をかける等の思いやりも重要である。

・外部講師(落語家等)の招待講演、携帯写真の公募等、従来の図書館像とは違う"利用者が楽しんでもらえる場所作り"を演出することも重要である。

・メディアに対する広報については、受身的ではなく、図書館側から情報を提供するなど積極的な姿勢が重要である。

・閲覧業務を委託している場合は、委託業者の方との情報共有を円滑にし、閲覧における利用者のニーズ・シーズを把握し、適切な対応措置を取ることが重要である。

・以上のような様々な取り組みを通じて、“常に図書館が利用者の為に何かしら活動している”ということを利用者に意識させることが最重要である。

- 以上 -